

令和 5 年度文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」
研修パッケージ③ 特異な才能と学習困難を併せ有する児童生徒への対応について
振り返りシート

Step. 1

(1) 次の文章中の (①) から (③) に入る言葉として適切なものを選びましょう。

特異な才能のある児童生徒の認知や発達の特性として、強い好奇心や過度の感受性、豊かで鮮明な想像力、高い身体的活動性、過敏な五感等、「過興奮性 (Overexcitability: OE)」と呼ばれるものがあります。これらは、周囲の想定よりもはるかに (① 大きな・些細な) 刺激に対し、想定される範囲を超えて (② 穏やかな・激しい) 反応を示すことを指します。これらは才能に伴うことの多い行動特性であり、(③ ADHD・PTSD) 等の誤診を生みやすい特性としても知られています。

(2) 研修動画の中で、先生の演示を見るために教卓へ向かう際に、友達を押しつけて先生の左そばに駆け寄る児童の例が紹介されました。この児童が友達を押しつけてまで先生の左そばにいたかった理由は何だったのでしょうか。

Step. 2

授業で使っている教科書か教師用指導書を一つお持ちください (どの教科、学年でもかまいません。学習指導案でもかまいません)。そして、単元全体を通して、あるいは一つの授業について、その授業計画の中で特異な才能と学習困難を併せ有する (2e) 児童生徒の特性等から工夫できる点や配慮が必要な点を考えてみましょう。可能であれば、特別支援教育コーディネーターの先生と共有し、それらの点をさらに具体化すると共に、多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について話し合ってみましょう。